



巻向 三輪山の麓から 大和平野の眺め 正面に箸墓 奥左:葛城・二上山 奥右:竜田・信貴・生駒の山並 2011.8.2.



三輪山と鉄の大鳥居



箸墓



大和平野に浮かぶ大和三山

山の辺の道 巻向周辺を歩くとどこからでも見える大神神社の大鳥居・箸墓・大和平野に浮かぶ大和三山

8月2日 朝早く家を出て、奈良国立博物館で開催されている特別展「天竺へ 三蔵法師 3万キロの旅」を見にいって、その後 久しぶりに巻向・三輪を歩いてきました。

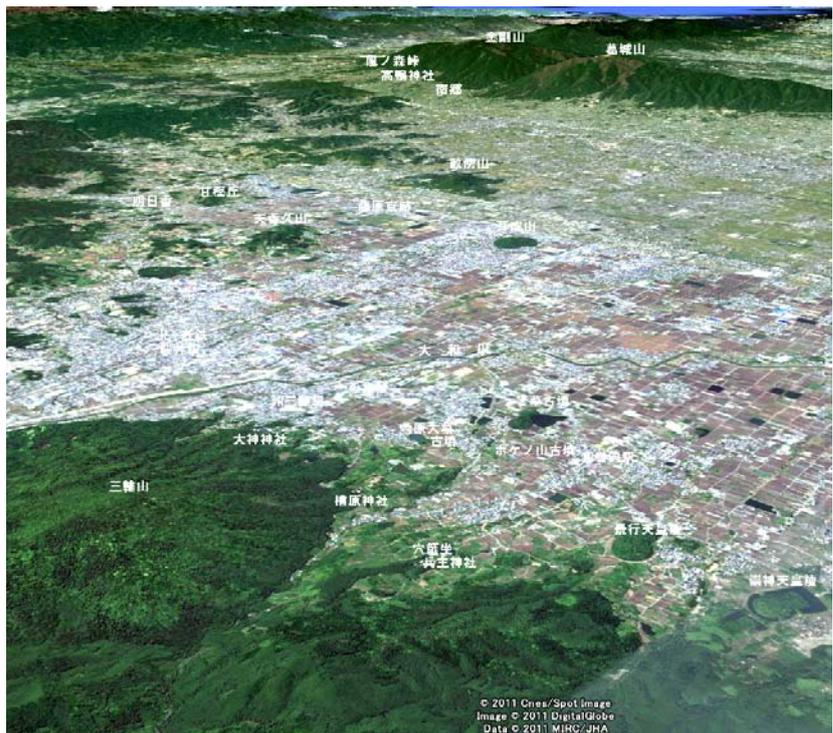
「西遊記」のモデルとなった三蔵法師のシルクロード・天竺への旅の各地場面が絵巻に描かれた藤田美術館所蔵の全12巻・全長総計190メートルを超える長大な国宝の絵巻が全巻公開。最近はややホーンを耳に憑けて、作品それぞれの前でゆっくり解説が聞けるようになり、自分の知らない時代背景や描かれた場面の解説を見れるようになって ゆったりと博物館巡りの楽しみが一つ増えました。

展覧会は出足が大事 一歩先に行くに限る。ゆっくりと見て、それからお茶して、街を歩く。久しぶりに緑に包まれた奈良の街を歩いて午後 色々発掘が進んで、クローズアップさ

れている巻向がどうなっているのか また、三輪山の鉄の大鳥居にも出会いたくて、纏向から三輪へ 三輪山の山裾をぶらぶら歩いてきました。特別展「天竺へ 三蔵法師 3万キロの旅」の話はインターネットに沢山書かれていますので、そちらをどうぞ。また、ゆっくりの奈良散策には奈良町を抜けての元興寺がおすすめ。ゆったり行ったことがなかったのですが、元興寺の鬼(がごぜ)

に出会いたくて立ち寄りました。奈良町の真ん中にある世界遺産に登録された南都7大寺の一つの大寺ですが、一般受けするような観光資源がなく 今はひっそり。もう 境内には桔梗が咲いて 現代風のちいさな鬼が数個 境内の片隅にちょこっと置かれ、京都の大文字山かと思間違う奈良の大文字山「高円山」が本堂の屋根越しにみられました。

● 元興寺と元興寺の鬼「がごぜ」



大和平野南部 巻向周辺 google 鳥瞰写真



1. 鉄のモニュメント 三輪山大神神社の大鳥居



山の辺の道を南に歩くとどこからでも 大和平野の山際に見える三輪山大神神社の大鳥居 奈良へ出かけるついでに、どこへゆこうか…。

ふっと 「三輪山大神神社のあの鉄の大鳥居はどないなっているやろか 錆がでてないやろか…」ゆっくり眺めてみたいと思ったのがきっかけ。鉄の山 三輪山を訪ね 山へ参拝登山した後 帰りに大鳥居を眺めたのが 2004 年。

その時は「鉄製や」とさほど気にもとめなかったのですが……。

インターネットをチェックしていて この大鳥居が無塗装でサビがでない耐候性鋼でできていることや日本各地の神社の大鳥居は鉄製でしかも無塗装で錆がでない耐候性鋼板でできているものが多数あると知ったのがきっかけ。

あの霧島神宮 熊野本宮 戸隠神社 靖国神社に北海道神宮の大鳥居そして 赤く塗られた談山神社の鳥居も。

(JFE エンジニアング 耐候性鋼板の鳥居 より)。

鉄と関係深い金山彦命を祭る岐阜県垂井の南宮神社の赤の大鳥居も鉄製である。最近は無塗装の鳥居もある

高度成長期 鋼の新分野開拓が始まった 1960 年代 無塗装で使える鋼板として脚光を浴びた耐候性鋼板でしたが、初期鋼表面の錆が中々安定化せず、流れ錆がでて、限られた構造物にしか実用の道が開けず、苦難が続いた。やがて 表面錆安定化処理技術が確立して やっと数多くの用途に実用化が進んだ鋼。高級新分野開拓の先駆けとして、苦難を克服した鋼として印象に残ってきた鋼である。

大神神社の大鳥居が建設完成したのは昭和 61 年(1986)。日本の高度成長からオイルショック(1974)を経て 鉄鋼業では 円高・鉄鋼不況が続く 1980 年代。 そんな時代に建設された無塗装の耐候性鋼を用いた大鳥居。 その後も 耐候性鋼の開発と錆安定化処理技術の開発がさらに続く。「三輪山大神神社の大鳥居は昭和の鉄の歩みを思い起こす鉄のモニュメントだ」と……。



大神神社大鳥居 概要

大神社は、我国最古の神社にして、大和国一の宮である。去る昭和五十九年十月十三日の昭和天皇陛下の行幸、ご親拝を記念、また、ご在位六十年を奉祝し、この大鳥居を建立した。

与像の古図七点何れにも、この付近に大鳥居が記さるも、現在地の南西二帯の地名が、大鳥居として存在する筈ある処である。大鳥居の概要は左記の通りである。

記

- 一、高さ 三三・二メートル
- 一、柱間 二二・〇メートル
- 一、柱の直径 三三・〇メートル
- 一、柱木の長さ 四〇・八メートル
- 一、柱体総重量 一八〇トン

材質 耐候性鋼板(あらゆる天候に耐えうるが、表面に錆層が形成され、それが、種の塗装の役割を、腐食を防止する)

耐久性 一、三〇〇年

耐風圧力 風速八〇メートルに充分耐える

耐震力 マグニチュード一〇の地震に充分耐える

基礎構造 (片側柱について)

基礎は縦一〇メートル・横七メートル・厚さ四メートルの鉄筋コンクリートを打ち、その下に地下二次メートルまで重層一メートルの鉄筋コンクリート杭四本が打ち込まれている。片方基礎部に約六〇立方メートルのコンクリートが注入されている。

三輪山 大神神社の大鳥居の概要 大鳥居の傍にある説明版より

2. 巻向 箸墓から 三輪山大神神社の大鳥居へ歩く

● 巻向 箸墓・箸中の集落から東 山の辺の道へ 三輪山の山裾に登る

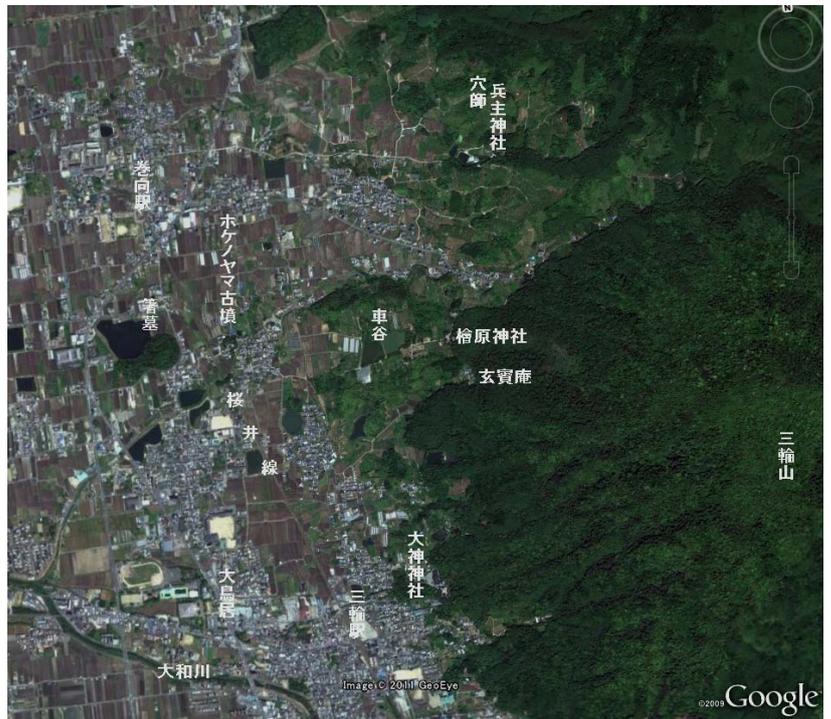
昼食を済ませた後 桜井線の巻向へ。巻向から 三輪山の山麓の山の辺の道をぶらぶら箸墓から大神神社に出て、大鳥居まで歩こうと。奈良からは何本も電車があると思っていた桜井線 平日の昼間は1時間に1本しかないのにびっくり。時間にせかれるわけもないのでのんびりと。

奈良から約 30 分ほどで、JR 桜井線巻向駅で下車。桜井線に沿って田園の中を箸中の集落を抜けてゆく古道をたどる。

東側には 南北に続く山並みの山裾がひろがるなだらかな緑傾斜地がつづき、すぐ南にゆったりした三角のスロープで樹木におおわれた三輪山が見える。何度も歩いた道 天理から三輪山山麓を飛鳥へぬれる上ツ道。

直ぐ上には山の辺の道が同じく南北に続く。

10 分ほどで 邪馬台国の卑弥呼の墓と言われる箸墓の縁の池の所に出る。緑の森に包まれて東西に横たわる巨大な前方後円墳の後円部の端で、古墳に沿って池があり、大和平野の向こうに二上山が見えている。昨年 巻向駅の直ぐ周辺の所で、弥生時代末期の宮殿跡とみられる東西軸に整然と並ぶ大きな建物跡が見つかり、この巻向の地が邪馬台国の中心部(纏向遺跡)邪馬台国大和説ブームが起こって 巻向周辺も人の波だろうと思っていたのですが、平日はいたって静かで、この箸墓の周辺もなにも変わっていないようだ。



天理から飛鳥へ伸びる古道 上ツ道(上街道)がすぐ横を通る卑弥呼の墓といわれる箸墓古墳 2011.8.2.



後円部をかすめて街道が続く箸中の集落



箸墓古墳の端から西に葛城・二上山が遠望される

古い家並みが続く箸中の集落の中を箸墓の後円部に沿南へ回り込んだ街中で整備された遊歩道と交わる。街細い十字路「山の辺の道」の案内標があり、確かこの道を東にたどれば、ホケノ山古墳の所から三輪山の山裾まで登ってゆけるはず。

JR桜井線の踏切を渡るとすぐ、国津神社」の横で、東から流れ下ってきた小さな川「巻向川」に出会う。子の直ぐ北側のところがホケノヤマ古墳で、この纏向川を東にたどれば、三輪山の山裾を北から南へ続く山の辺の道である。巻向川は東の奥にある纏向山・三輪山南山腹に沿う谷間(車谷)から流れ出し、丘陵地の田園集落の中を西に流れ下る古代から歌に詠まれた由緒ある川である。

南側の三輪山は「鉄」の山 そして 谷のすぐ北側の集落 穴師には「鉄」と関連する兵主神社があり、古代鉄の関連地で、この川に砂鉄が流れ込んでいないかと何度か辿ったことがある。

また、北の天理から山裾を縫って桜井へ続く山の辺の道がこの谷の出口周辺でクロスし、この辺りからは広大な大和平野がながめられ、すぐ下には纏向の古墳群が眺められ、南の三輪山の麓には大神神社の大鳥居が街並みの中から頭を出して浮かんでいる。

多くの人が「国のまほろば 大和」を眺めるのに推奨する場所で、私も一番好きな場所の一つである。

この川に入っている人がいて、聞くとこの川のごみ掃除。地元の人たちによって、清らかな川の環境が守られている。やっぱり 砂鉄は出ないらしい。



三輪山の谷から流れ出て箸中 国津神社の横を西に下る纏向川

国津神社の横を東に登ったすぐ北側にホケノ山古墳である。「あれ・・・ 印象が違う」前に来たときには草が生えていなくて、ホケノ山の頂上に登れたのによく整備はされているが、草で覆われている。 地元の人にマムシ注意とおどかされ、草履でこの草の中に入る勇氣はなし。何度も来たように思うのですが、草が生い茂っているのにはびっくりですが、纏向のルーツ的古墳 昔のままの静けさ。 ホケノ山のてっぺんから巻向全体を見ようと思っていたのですが断念。



ホケノ山古墳



現在の様子



こんな時もありました

南西から北東に横たわる古墳時代前期初頭の纏向古墳群に属するホタテ貝型の前方後円墳 左前方部 右後円部
まあ、もうすこし東へ登って、ゆっくり大和・巻向を眺めよう。

集落を抜けて、ぱっと田園と果樹農園がひろがる傾斜地が三輪山の山裾に広がり、南側田園の向こうに三輪山 大神神社の大鳥居が街並の上に頭を出している。



田園と果樹園の広がる一本道 東の三輪山山麓へ登る



南には広い田園の向こうに大神神社の大鳥居 2011. 8. 2.

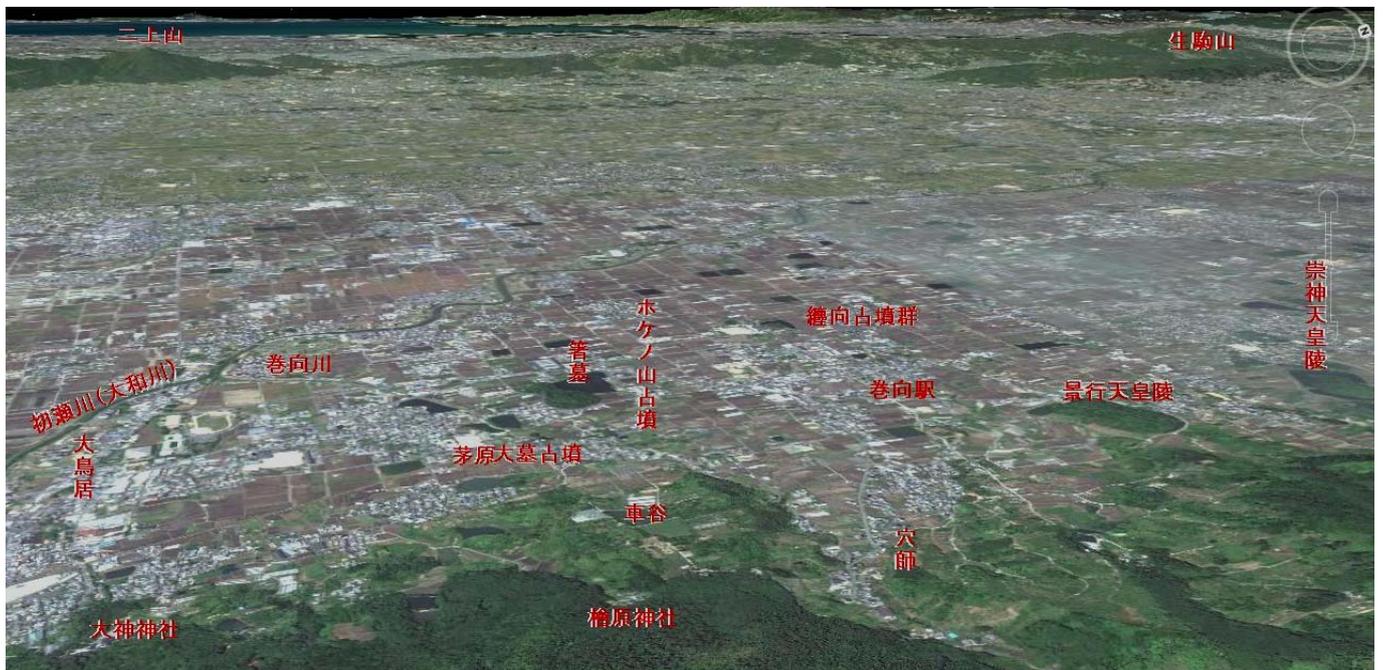
● **車谷の池の所から「国のまほろば 大和平野」を眺める**

ホケノ山古墳からさらに東へ果樹農園が続く丘陵地を少し上ると上下に二つの池が並んでいる場所に出る。さきほど、村の人に教えてもらった場所であるが、前にも来たことがある。

ここが車谷の素晴らしい大和平野展望地で 広大な大和平野全体が見渡せる。ふと池の畔を見ると川端康成書の「国のまほろば」の碑があったり、横の果樹園の樹木の下にもいくつか碑がある。大和を眺める一等地



三輪山西の丘陵地 車谷から見る 巻向の古墳群 左一番大きいのが箸墓 本当に大きい 2011.8.2.
 後方左手二上山から右へ竜田・信貴・生駒の山並みが大和平野を取り囲む



車谷の池之端にある碑
 碑の後ろ池の向こうに
 二上山や大和三山が顔
 を覗かしている



池の端から角度を変えて 巻向遺跡周辺を眺める
 後ろ正面は生駒山 2011.8.2.

下の池の端からは大和平野の南側がよくみえないが、場所を変えて、果樹園や池の上へあがると大和三山が平野の中にぽっかり浮んでいるのが見えました。また、南の山裾 飛鳥の方には天香久山がみえ、その手前に大神神社の大鳥居も見える。

西側の大和平野ばかりに目が行っていましたが、振り返ると池の向こうに秀麗な三輪山が池にその姿を映していました。



南西側には二上山から南へ葛城・金剛の山並みの前に ぽっかり大和三山が浮かぶ大和平野が見える 2011. 8. 2.



大和平野の南の端 明日香から 風の森・金剛山・葛城方面 大和三山が三つとも綺麗に見える
また 左端 天香久山の手前に 大神神社の大鳥居が見える



池の東側には三輪山が池に影を移していました

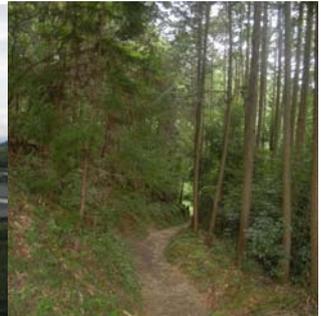
● 檜原神社から 山の辺の道を三輪山の山裾を大神神社へ

三輪山の山裾 僧都之滝 河床に堆積した鉄分を見つける 人工なのか???

池の展望所からさらに東へ森の中の坂道登ると檜原神社。ここで山の辺の道に入って 南へ静かな林の中を大神神社へ



檜原神社は大神神社の摂社で、御三輪山を神体として祀っている。
本殿も拝殿もなく、3つの鳥居が連なった珍しい形の「三ツ鳥居」が玉垣に囲まれて立っている。



「鉄の山」三輪山周辺の山の辺の道に来るといつも気になるのが、砂鉄。 小さな谷川を見ると覗き込んで、磁石を引っ付けてみ見る。以前狭井川の谷川で砂鉄を見つけたことがあるのですが、他では不思議に見つからない。

今回 檜原神社から少し南へ行った三輪山の小さな谷から流れる僧都之滝の石組が真っ黒になっているのが、不思議で滝の河床を覗きこむと鉄分が集積していました。 石組が人工的で、かつ滝口が鉄パイプなので、ちょっと疑問もあるのですが、三輪山から流れ出した砂鉄かもしれません。 また、石組に使われた石が本当に真っ黒で、この岩かなあ・・・と。

今回 磁石をつけられなかったので、次回は砂鉄採取とともにこの岩にも磁石を当ててみたい。

これで、三輪山から流れ出した砂鉄の集積の可能性地が2ヶ所になった。



山の辺の道 玄賓庵 横の僧都之滝 万葉歌碑 13. の所の河床に堆積した鉄分 人工なのか???

「山吹き立ちしげみたる山清水 酌みに行かめど道の知らなく」

そのまま三輪山の山裾の森を巡る山の辺の道を行けば狭井神社から大神神社であるが、三輪の郷の中に浮かんで見える大鳥居をみたくて、山の辺の道を離れて少し西に下って西へ下って 三輪山の傾斜地にでると視界が開け、南に大鳥居が見えてくる。田園の中を三輪の街中にでて、大神神社の正面から 大神神社へ。



西へ下って 三輪山の傾斜地に出ると視界が開け 南の端に大鳥居が見える 2011. 8. 2.



三輪山 大神神社 2011.8.2.

● 鉄のモニュメント
三輪山 大神神社 大鳥居

晴天に恵まれて 本当にすがすがしい。
久しぶりの大神神社のお詣りを済ませて
大鳥居に出会いに行く。

「錆が出てないだろうか 表面あれて
ないか」とちょっと心配。

2004 年以來の大鳥居との出会いである。
無塗装といいながら、初期の耐候性鋼は
錆がでていたし、北海道
百年記念塔はちょっと赤く錆が出て
いたので、ちょっと心配。

大神神社正面から まっすぐ西に伸び
る参道を大鳥居に向かう。

「昭和の大鳥居でホンマものでない。一ノ鳥居は別にすぐ横にある」
という人もあるが、鉄屋にとっては まぎれもない昭和の鉄のモニュメントである。





完成 昭和 61 年 5 月 28 日
 高さ 32.2m 柱間 23.0m 柱径 3.0m 笠木長 40.8m
 本体総重量 18 トン
 材質 耐候性鋼板
 表面に錆層が形成され、無塗装で
 塗装の役をなし腐食を防止する
 耐久性 1300 年
 基礎 10x7x4m の鉄筋コンクリートを打ち、
 その下 24m まで 1.1m φ の鉄筋コンクリート杭
 4 本が打たれている。
 大神神社 大鳥居 銘板より



大鳥居の横に立って柱に触れる。久しぶりの鉄の感触。外観も表面も綺麗だ。以前に出会った時とほとんど変化なし。

ようここまで、持ちこたえて 錆がでない無塗装の技術が進められたものだとうれしくなる。かつて 耐候性鋼板の無塗装使用は山の中の塗装ができない谷渡りの橋梁などの適用などに限られた時代があり、苦難の用途開発鋼板とのイメージが私にはつよく、いつも耐候性鋼板の構造物を見ると気になって「頑張れよ」と声をかける。

暑い夏 ここまで 足を延ばしてよかった。うれしい一日でした。



【参考資料】

1. 耐候性鋼板の鳥居 JFE エンジニアリング(株) カタログ
2. 和鉄の道 古代 初期大和政権が王城の地に求めた産鉄の地 鉄の山「三輪山」とその山麓を縫う山辺の道 2004. 3.
3. 和鉄の道 元興寺の鬼「がこぜ」 四季折々 2009 年 2 月 Iron Road より

8.

古代 初期大和政権(三輪王権)が王城の地に求めた産鉄の地 鉄のやま「三輪山」とその山麓を縫う山辺の道



大和盆地を大阪に流れ下る大和川(初瀬川)が青垣・吉野の峰々が連なる東の壁から大和盆地に流れ出る所に秀麗なピラミッド型の三輪山がそびえている。この奈良県桜井市「三輪山」の麓は古代日本誕生の黎明の時代「やまと」の枕詞「しきしま」と呼ばれた王城の地。4世紀三輪王権と呼ばれる初期大和政権成立の舞台。ここで大和朝廷の基礎が養われたという。

また、北に伸びる三輪山山麓には3世紀に遡れる巻向地区には纏向古墳群があり、邪馬台国畿内説を唱える人はこのこの三輪山北山麓の地が卑弥呼 邪馬台国の地という。

この山裾を縫って明日香から北へ古代の道 山辺の道が王城の地を貫き、麓にはこの三輪山をご神体とし、出雲の神「大物主命」を祭神とする日本最古の神社大神神社がある。

鉄との深い関連が考えられる神社で、産鉄地・産鉄の民と関係の深い地と見られ、今もその山麓には金屋・穴師・金刺などの産鉄地名が残り、南麓の金屋からは鉄滓が出るとの文献もある。



そう考えるとこの三輪山山麓は古代の重要な産鉄地で三輪山は鉄の山ではなかったか・・・。この地を得た人たちが、この三輪山の鉄および鉄の技術を背景にこの地を本拠として、日本誕生がなすとげられたのではないかと・・・おぼろげに三輪山は古代の産鉄地とと思っていましたが、もっと強く 三輪山の鉄が直接に日本誕生に重要な役割を演じたのではないかと。。。。と。思えてくる。



ちょうど 畿内の製鉄遺跡を歩こうと思っていた矢先である。また、大神神社の神域 三輪山へは届を出せば登拝出来るという。

三輪山へ行けば、何か鉄の痕跡が見つかるかも・・・そんな期待をもって出かけました。

期待にたがわず 三輪山は今も砂鉄が見られる鉄の山

また、この王城の地は時代を越えて脈々と鉄の系譜と共に続いていると思えてくる。

また、大神神社の巨大な大鳥居は現代の鉄のモニュメント。これから1300年も三輪山の前に立って王城の地 やまとを見据え続けるという。もうビックリ・・・・・・・・。

古代 畿内には三輪山・石上と同時に河内にも大きな鍛冶工房。それが三輪王朝に続く河内の王権へ・・・そして北近江・越の鉄をバックに畿内へ入った継体天皇の誕生へ。

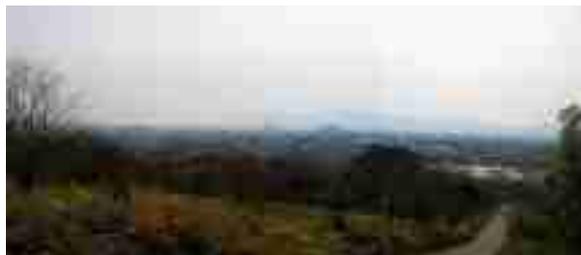
畿内の「鉄」が面白くなってきた一日でした。

内 容

古代 初期大和政権(三輪王権)が王城の地に求めた産鉄の地 産鉄の地「三輪山」とその山麓を縫う山辺の道



1. 産鉄の地「三輪山」とその山麓を縫う山辺の道 Walk
 1. 産鉄地名の桜井市金屋集落 そこは古代王城の地「しきしま」
 2. 三輪山をご神体とする日本最古の神社 大神神社
 3. 三輪山 登拝 三輪山に鉄の痕跡を探して
 4. 卑弥呼の地 箸墓界限 三輪山麓の丘より夕日の大和盆地を眺め
2. 『古代の鉄の山「三輪山」と初期大和政権』 思いつくままに
 1. 三輪山は古代鉄支配のシンボルでなかったか・・・
 2. 三輪山 大神神社 三輪山山麓は産鉄の地
 3. 鉄をめぐる朝鮮半島諸国と日本の関係
 4. 邪馬台国大和説と三輪山山麓 山辺の道



三輪山山麓山辺の道からの大和眺望

【 (左) 大和三山 (右) 箸墓古墳を中心とした纏向古墳群 】

1. 産鉄の地「三輪山」と山麓を縫う山辺の道 Walk



3月23日の朝 難波から近鉄に飛び乗り、桜井へ久しぶりの大和である。古代産鉄のシンボル三輪山とその周辺に鉄の痕跡を訪ねるのが今日の目的。知らなかったのですが、三輪山へも神社で届を出せば登拝出来ると聞き、飛び出してきました。気楽な風来坊のWalkである。

大和盆地を経て大阪に流れ下る大和川(初瀬川)が青垣・吉野の峰々の連なる東の壁から大和盆地に流れでる所に秀麗なピラミッド型の三輪山がそびえる。この三輪山山麓の地が桜井 古代初期大和政権の中心地である。



三輪山から流れ出る狭井川で見つけた砂鉄の堆積ときらきら光る雲母

三輪山山麓には産鉄と関係する大國主命を祭る日本最古

の神社 大神神社 そして地図には金屋・穴師の地名が残り、其処は初期大和政権の遺跡が残る初期大和政権の中心地。また、大和川の岸は都の外港で難波津から大和川を遡る舟運の最終地として栄えた「海拓榴市」。和鉄・鍛冶の技術をも含め、大陸からの新しい文化が渡来人と共に真っ先に伝来する地でもある。確証はないが、和鉄と深いかわりを持つと考える。

生駒山山麓を通過して 二上山が見え出すと西に葛城・金剛山 東から南へ青垣・吉野の山に隔てられた広大な大和平野。大和三山を眺めながらその中をまっすぐ東に突ききり、東の山々が近づくと桜井。大阪難波から約45分足らずである。

駅前広場に歴史街道「山辺の道」の標識。今日は一日三輪山山麓の山辺の道を歩く。

東の方向に市街地の家並みの直ぐ向こうに三輪山に連なる山々が見え、そっちへ歩き出す。



桜井駅周辺 桜井は吉野杉の集散地

まず、初瀬川を探して、その北岸三輪山山麓の産鉄地名のある金屋集落へ行って、そのまま山裾を北へ大神神社へ。そして三輪山へ登拝して 山辺の道をそのまま北へ卑弥呼の墓といわれる箸墓へ ぼかぼかの春の日差しにゆっくりと東へ山の方向へ歩き出す。

さすが 桜井は吉野杉の集散地。

桜井の駅の直ぐ近くに最近ではほとんど見られなくなった大きな貯木場がある。この横を抜けるともう市街地を外れ、菜の花の向こうに傾斜の緩やかなピラミッド型の三輪山が見え、田舎ののどかな風景がひろがっている。



桜井市市街を抜けたところから 三輪山

ている。

三輪山を眺めながら田圃のあぜを横切っていくと三輪山の山裾を流れる川岸に着き、歴史街道「金屋」の標識。

「やまと」の枕詞「しきしま(磯城嶋)」 初期大和政権の王城の地である。

この川が大和盆地を縦断して大阪湾にそぐ大和川の中流 初瀬川。

運の終着地。都の外港しとしても大いにさかえたところ。また、ここからは陸路となり、長谷・伊勢詣の宿場としても栄えた。

古代には大阪難波からこの三輪山麓まで遡る舟運の終着地。都の外港しとしても大いにさかえたところ。また、ここからは陸路となり、長谷・伊勢詣の宿場としても栄えた。

この東西に流れる初瀬川とクロスして 三輪山の山麓を通過して石上へ古代王城の地を貫く山辺の道がつづく。橋からは東の山々の間からまっすぐ流れ下る大和川が良く見え今も交通の要衝である。



初瀬川 三輪山南麓 金屋付近



初瀬川から東の長谷溪谷への街道筋

1.1. 産鉄地名の桜井市金屋集落 そこは古代王城の地「しきしま」

6世紀 欽明天皇磯城嶋金刺宮 仏教伝来の地ならびに7世紀栄えた都の外港「海拓榴市」

この一帯は「やまと」の「まくらことば」である「しきしま」(磯城嶋)の地。

川の南側に6世紀欽明天皇の磯城嶋金刺宮が造営され、欽明天皇の十三年(552)に百済の聖明王から釈迦仏の金銅像一軀と経論若干巻とがもたらされ、仏教が公式に日本に伝来した仏教伝来の地でもある。



金屋集落へ入る橋のたもとに仏教伝来の地の碑が建っている。

また この川岸周辺は「海拓榴市」と呼ばれ、交易の中心で7世紀には「藤原京」の外港として遣隋使もここから旅立ったという。また さらにその後 平安時代には「伊勢詣」「長谷詣」の宿場町として随分栄えたという。



今は全く静かな山裾の集落。ここで初瀬川に沿った東西の街道筋と北へ三輪山に沿って続く山辺の道が交わり、道の両側に落ち着いた家並みが続いている。

この古い家並みに沿って金屋の集落を三輪山の山裾を北へ細い山辺の道が続き、金屋の石仏や崇神天皇の磯城瑞離宮跡が山裾の林の中にひっそりと残っている。



金屋の石仏 2004.3.23.



崇神天皇の磯城瑞離宮跡 2004.3.23.

鉄滓が出たと文献のある金屋遺跡を探して、ひっそりと静まりかえった山裾の金屋集落を北へ向う。幾度となく集落の人に聞くが、全くわからぬ。

金屋の名が示すとおり鉄の痕跡がないかちよろちよろ流れる小川を見たり、山間の細い谷筋を覗いたりであるが、まったく判らず、30分ほどで金屋の集落を抜け、大神神社のある三輪の集落に入った。

午後 桜井市の埋蔵文化財センターを訪ね金屋遺跡について尋ねると

「 古老の話として、集落のあちこちで鉄滓が出たとの話がある。また中世鋳物師があり、その滓もあり、古代の鉄滓・鍛冶滓の真偽はよくわからない。 」

との事であった。

この三輪山の周辺で本当に古代の史実どうりに鉄の痕跡が見つかるだろうか・・・不安になってくる。

1.2. 三輪山をご神体とする日本最古の神社 大神神社



日本最古の神社 三輪山をご神体 大物主命を祭神とする大神神社(三輪明神)

三輪山の山裾を縫って北へたどると山裾の林の中から不意に大神神社の鳥居の前にでる。西の街の中心部に

ある大鳥居からまっすぐ三輪山へ続く参道と直角にここで出会う。

ここでは、もう三輪山に近すぎるほど近づいているので、ご神体の三輪山の全貌はもう見えない。

鳥居からまっすぐ大樹の林の中を拝殿に向って参道が続き、階段をあがったところに立派な拝殿がある。

三輪山が神体山であるので、社殿はない。



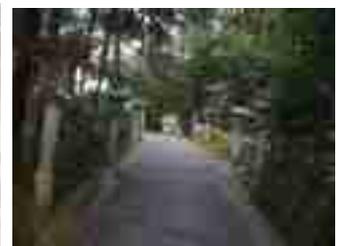
大神神社の有名な三ツ鳥居は拝殿の後ろにあり、ここからは見えない。この三ツ鳥居は三輪山山中にあるみっの磐座を現し、大神神社が祭る3柱の神を示すという。



檜原神社 三ツ鳥居

大神神社より、北側へ山裾を回ったところにある大神神社の摂社檜原神社も三輪山がご神体で社殿はなく、三ツ鳥居が正面にあり、この三ツ鳥居を通して三輪山に参拝する。

この三ツ鳥居は三輪を代表する三輪そうめんの商標にもなっている。



大神神社から摂社狭井神社への道

大神神社からさらに北へ林の中の参道を 10 分ちょっと歩くと森の中に大神神社の摂社狭井神社がある。三輪山への登拝の為にはこの狭井神社で許可願いをせねばならない。



大神神社の摂社 狭井神社

1.3. 三輪山 登拝 三輪山に鉄の痕跡を探して



正午少し前に狭井神社で白いたすき

授け、神域なので飲食・写真撮影禁止 途中にある磐座でお参りすることなどの注意を受けて、拝殿の直ぐ横の登拝口より、三輪山へ登り出す。

三輪山にはそれぞれが大神神社の神々と同一視され、化身と言われる三つの磐座がある。

麓の辺津磐座・少彦名命 中腹の中津磐座・大己貴命 頂上の奥津磐座・大物主命の三つである。大神神社の三つ鳥居もこの三輪山の三磐座に起因すると言われる。麓の辺津磐座・少彦名命 中腹の中津磐座・大己貴命 頂上の奥津磐座・大物主命である。



大神神社大鳥居

ゆっくり歩いて登り約 1.5 時間弱 帰り 1 時間弱の道のり。

よく整備された登拝路が原生林の中についている。平日でもあり、全く人影なし。狭い小さな谷がまっすぐ上に向っている。小さなせせらぎがチョロチョロと音を立て心地よい。

神域の原生林の中、視界は開けないが、気持ちよい小道が続いている。

横の小さなせせらぎを見ると階段状の溜まりの中にきらきら光る小さな小片が散らばっていて、底には多くはないが、黒い堆積がある。きらきら光るのは雲母 黒い堆積は砂鉄である。

上部へ続くせせらぎの中にずっとある。

以前東北岩手の砂鉄川で見た雲母と砂鉄の組み合わせがこの三輪山にも存在する。



狭井神社からの三輪山登拝口

30 分ちょっとで 中腹の滝のところきて、ここから細い谷と別れ、山腹をまっすぐ上に登ってゆく。

視界は開けず、林の中。急斜面と言うわけではないが、上へ上へと良く整備された道が続いている。

道がひだまりに出るとききらきら雲母が輝いて美しい。また この道の上にも階段状になった所々に黒い砂鉄が堆積している。雨水の通り道として、この登拝路に流れ出て、堆積しているのだろう。

幾度となく砂鉄を産する山に入った事があるが、注意してこなかった精もあるが、これほど砂鉄が山道にあるところはない。やっぱり 鉄の山である。 神域で写真が取れないのが残念。

注連飾りの付けられた磐座の横を歩いてさらに上へ登っていく。

所々木々の間から大和盆地が垣間見え、金剛・葛城の山をバックに平坦地の中に大和三山が見える。

低い山とはいえ随分登ってきた事が判る。相変わらずつづら折れでない登りの道が続き、「もう空も近いのに頂上の尾根に出ないなあ」と思っていて、ふっと気がついた。この山は稜線のないピラミッド型 上り詰めた所が頂上。

約 1.5 時間ほどでまわりの樹木で視界は開けないが平坦な広場状の社のある頂上部に到達。三輪山頂に鎮座する大神神社摂社高宮神社で大物主神の子・日向御子神を祀る。後ろ両側には 1 本ずつ天に向かってまっすぐ伸び、神聖な場所を演出している。視界は開けないが、気持ちのよい場所である。

さらに少し奥に進むと磐座がありここで道は行き止まりとなっている。大物主命の化身と言われる奥津磐座である。磐座の前に立ち手を合わせる。

200 年も昔 幾多の産鉄の人達がここに立ち、鉄の自立を願って儀式をしたに違いない。

この山の下で繰り広げられてきた日本誕生の歴史をあれこれひとり思い浮かべてました。

神域であるので、もっと宗教臭いと思っていましたが、たすきをかけていること以外特にそれもなし。

平日でお参りする信者に出会わなかったからかもしれないが・・・

20 分ほど頂上にもときた道を引き返す。

登拝路は神域の中にあり、写真を取れませんでした。狭井神社の直ぐ北、三輪山の谷筋から流れ下る狭井川でも川底に光る雲母と砂鉄の堆積を見つけました。



三輪山から流れ出る狭井川の川底に堆積する砂鉄 2004.3.23. 狭井神社の直ぐ北で

どこに鉄の鉱脈があるのか判らないが、黒い砂鉄が散らばり、差鉄の有る所にきらきらと雲母が光る。三輪山は鉄の山であることに納得した登拝でした。

また、三輪の街中に立つチャコール色の落ち着いた大鳥居 その下に立ってビックリ。耐候性鋼板を使った無塗装の鋼鉄製。

建設後約 20 年を経て素晴らしい色でそびえ、鉄の神 三輪山の前景を作っている。

意図されたのではないだろうが、古代からの鉄の神に現代の鉄のモニュメントである。



完成 昭和 61 年 5 月 28 日
高さ 32.2m 柱間 23.0m 柱径 3.0m 笠木長 40.8m
本体総重量 18 トン
材質 耐候性鋼板
表面に錆層が形成され、無塗装で
塗装の役をなし腐食を防止する
耐久性 1300 年
基礎 10x7x4m の鉄筋コンクリートを打ち、
その下 24m まで 1.1m の鉄筋コンクリート杭
4 本が打たれている。
大神神社 大鳥居 銘板より

耐用年数 1300 年の銘板のある現代の鉄のモニュメント 大神神社 大鳥居

30 分ちょっとで麓に下りて、三輪の特産 三輪そうめんと柿葉すしで遅い昼食。

再度 大鳥居の前から三輪山の山麓を北の箸墓古墳への道をたどる。

1.4. 卑弥呼の地 箸墓界限 三輪山麓の丘より夕日の大和盆地を眺める

三輪山の北に位置する巻向地区には3世紀に遡れるといわれる纏向古墳群がある。卑弥呼の時代まで遡れるといわれ、ここが畿内説の邪馬台国の地であり、箸墓古墳などの纏向古墳群のいずれかが卑弥呼の墓という人もいる。またこの巻向地区の山側 三輪山に隣接した山麓穴師には初期大和政権(三輪王朝)の創始者崇神天皇陵や景行天皇陵がある。この三輪山に隣接する穴師も産鉄地名であり、またさらに北の石上には、古代5世紀には物部氏の大きな鍛冶工房があった。

三輪山山麓から北に続く山裾の一角は卑弥呼の時代から続く産鉄の地。

卑弥呼も初期大和政権(三輪王朝)も鉄を求めてこの地を支配し、鉄の力をバックに巨大化していったと考えるのも嘘ではなく思えてくる。確証はないが・・・。



箸墓古墳の傍にある纏向古墳群の標識

そんなロマンを考えながら、三輪山を眺めながら 大鳥居から北の森へ向って歩き出した。

三輪山をながめながらののどかな田園風景が広がる。

20分程で大きな森に隣接した箸中の集落に入る。

大きな森でこれが箸墓とは気付かなかったが、この森の端に沿って集落をぬけると大きな池がこの森を取り囲み、ここが箸墓と知る。本当に馬鹿でかい。

ここから東へ箸中の集落を直角に曲がって北へ向う。桜井線を北に渡ったところで丸い頂を見せるよく整備されたホケノ山古墳に行き着いた。



箸墓古墳の東端 箸中集落



箸墓古墳



箸墓古墳から東へ 山裾へ



ホケノヤマ古墳



箸墓古墳 ホケノヤマ古墳頂上より

ホケヤマ古墳は良く整備された公園になっていて、その頂上からは 直ぐ傍の箸墓古墳の大きな森が見え、その向こうには大和盆地が遠望される。

北側に眼をやると平野部には巻向古墳群の古墳と思われる森が点々と散らばっている。

また 東北の三輪山麓 穴師と思われるあたりにも幾つかの森がまじかにあり、三輪王朝の崇神天皇陵や景行天皇陵などであろう。

本当にまじかに日本誕生にかかわった古代の歴史が足下に広がっている。しかも、あまり気にとめていなかった古代産鉄の地がその本拠である。



卑弥呼の時代からの「鉄の重要性」にビックリする。「卑弥呼の邪馬台国が鉄をバックに大きくなってきたのでないか。。。。」と考えるなど今まで思いも寄らぬ事 鉄の山三輪山のロマンにしたりながら 陰影を増す大和盆地を眺めていました。

ホケヤマ古墳から桜井に戻る事にし、一番三輪山山裾に沿って続く山辺の道へ戻り、眼下に広がる夕暮れの大和盆地の景色や山裾の田園風景を楽しみながら三輪へ戻ってきました。



三輪山山麓 山辺の道 箸中付近より 大和盆地 2004.3.23.夕

遠く大和盆地の西の端には二上山から葛城・金剛の峰のシルエットが浮かび、その前には大和三山が優美な姿を見せている大和盆地がひろがり、直ぐ前には箸墓古墳の森。この大和平野の南東の端には三輪山の大鳥居が慄然と大和平野を見据えている。

「やまとはくにのまほろば」「しきしまのやまと」がゆったりと広がっている。

三輪山に行こうと思った当初は「古代産鉄の地に鉄の痕跡を訪ねよう」との軽い気分でしたが、「この地が卑弥呼の時代から日本誕生にかかわる初期大和政権の本拠地　そして古代を通じて難波津へ通ずる都の外港で遣隋使もこの地から出発した」など思いも寄らぬ事。

しかもそれがすべて三輪山を中心とした古代の産鉄の地で・・・。

本当に卑弥呼の邪馬台国が鉄とかかわるこの地なのだろうか・・・卑弥呼の国と鉄とがかかわりをもっていると考えなど本当にゾクゾクしてきます。

また、古代　畿内には三輪山・石上と同時に河内に大きな鍛冶工房。それが三輪王朝に続く河内の王権を・・・

そして北近江・越の鉄をバツクに畿内へ入った継体天皇の誕生へ。



三輪山の登拝路には今もきらきら光る雲母の片と共に砂鉄が散らばる鉄の山。

「古代日本誕生はこの三輪山の鉄を求めてこの地を本拠にしたのではないか・・・」

現代も古代もやっぱり「産業・文化の米」鉄の持つエネルギーにただ感激。



そんな思いでみる眼下の大和平野の端に1300年の耐用年数を持つという三輪山の鉄の大鳥居がリンと大和平野を見据えているのが、印象的。

三輪山へ登拝した満足感と思わぬ三輪山の鉄のロマンに浸りながら、桜井への道を急ぎました。

夕暮れの大和盆地をながめながら　桜井への山辺の道で

2004.3.23.　by M. Nakanishi



2. 『古代の鉄の山「三輪山」と初期大和政権』 思いつくままに



1. は古代鉄支配のシンボルでなかったか・・・
2. 三輪山 大神神社 三輪山山麓は産鉄の地
3. 鉄をめぐる朝鮮半島諸国と日本の関係
4. 邪馬台国大和説と三輪山山麓 山辺の道

1. 三輪山は古代鉄支配のシンボルでなかったか・・・

青垣山に囲まれ、巻向川と初瀬川の水垣に区切られた奈良県桜井市「三輪山」の麓は日本誕生の黎明の時代古代大和の中心であり、4世紀初期大和政権成立の舞台であった。「やまと」の枕詞「しきしま」もこの地である。

この地の東の後背にピラミッド型の均整の取れた美しい姿でそそり立つのが三輪山。

麓にはこの三輪山をご神体とし、出雲の神「大物主命」を祭神とする日本最古の神社大神神社がある。産鉄と関係深い出雲の神を祭る事で判るごとく、鉄を産する神秘の山でこの周辺は産鉄の地と考えられる。



大和朝廷の成立期 3世紀～6世紀 国内で

は自立製造できず、伽耶などの朝鮮半島からの輸入に頼ってきた「鉄」。この時代 朝鮮半島諸国も戦乱の中にあり、鉄の覇権をめぐる日本国内はもとより、朝鮮半島でも揺れ動く。

日本には数多くの産鉄の民が渡来し、力の源泉「鉄の自立」・鉄の覇権を求めた和鉄黎明の時代でもある。大和政権をも含め日本各地の諸国・豪族が輸入鉄原料による鉄鍛冶による武器・工具製作を勤める一方、産鉄地を手に入れ、品質は輸入品には劣るものの和鉄製造に乗り出し巨大化してゆく。



畿内では 大和政権の各氏族がこの大和・三輪山山麓そして河内などで そして吉備・美作・丹後・北近江・越の諸国が産鉄を背景に大和政権と連合・対抗してゆく。三輪山はそんな鉄支配のシンボル 大和政権にとっても放せぬ産鉄の地でなかったか・・・



卑弥呼の邪馬台国は三輪山の北 箸墓古墳などの纏向古墳群の一带との説が大和存在説で有力であり、

4世紀三輪王権と呼ばれる前飛鳥初期大和政権(崇神・垂任・景行・成務・仲哀)の中心地である。

5世紀には王城の地は河内の産鉄地に移るものの近江・

越の産鉄地をバックに王権に付いた継体天皇が大和に入り、6世紀半ば欽明天皇はこの三輪山南麓の金屋に都磯城嶋金刺宮を造営。仏教がこの地に伝来すると共に次の聖徳太子の時代 大和朝廷の安定成長時代へとつながってゆく。



営まれた。また初瀬川が長谷溪遡ってきた舟運の終着地として欽明天皇の十三年（552）に論若干巻とが我が国にもたらされ、仏教が公式に日本に伝来した仏教伝来の地でもある。

日本誕生の黎明の時期 大和政権の黎明を支えたこれら三輪山の麓には北から南に古代の道 山辺の道が山麓を縫って走り、今も金屋や穴師



出雲などの産鉄地名が産鉄の痕跡をとどめ、数々の古代遺跡が横たわっている。「やまと」の枕詞「しきしま」の地であり、三世紀後半から四世紀初頭の崇神天皇の都磯城端離宮や6世紀半には欽明天皇の磯城嶋金刺宮などが谷から流れ出るこの地は難波津から大和川を長く都の外港の役割を果たす。

は百済の聖明王から釈迦仏の金銅像一軀と経

2. 三輪山 大神神社 三輪山山麓 は 産鉄の地

三輪山をご神体とし、大物主命を祭神とする大神神社は産鉄と関係深い出雲氏の神社であり、いまも山麓に出雲の地名をとどめている。この出雲氏の居地に割り込む形で営まれるのが崇神天皇の磯城瑞離宮である。また、三輪山の北 石上には崇神天皇に重用され、次第に勢力を伸ばし朝廷の軍事・武器を支配した物部氏の本拠がある。当時 有数の鍛冶工房があり、鉄支配の本拠地だったのだろう。



弥生後期 倭と朝鮮半島の鉄を巡る交流

三輪山と物部氏の関係についてはよく知らないが、物部氏と大物主神との関係からすれば、物部氏も出雲氏の系譜と考えられなくもない。

当時 鉄は朝鮮半島の輸入に頼っており、力の根源として 鉄の支配(鉄加工原材料の輸入・鍛冶加工)と共に、国内での自立製造に必死になっていた時代であり、製鉄原料が探され、製鉄技術者である渡来人を中心に幾多の製鉄が試みられたに違いない。

そんな中で 鉄を産する三輪山はそれら産鉄に携わる人達 鉄支配のシンボルとしてさん然と輝いていたのではないだろうか・・・

3. 鉄をめぐる朝鮮半島諸国と日本の関係

この4世紀～7世紀半ばまで、朝鮮半島の三国時代 日本の古墳・前飛鳥の時代 朝鮮半島は戦乱の時代であった。

北には漢・魏の植民地があり、半島には高句麗が南への進出を狙い、百済・新羅そして小国の連合 伽耶が相互に競い合う激動の時代であった。特に伽耶は鉄の生産輸出国で日本はもとより周辺諸国もこの伽耶の鉄の輸入に頼っていた。この伽耶では 国力の小さな小国が群立しており、鉄資源・製鉄技術をめぐって常

に近隣諸国の侵略にさらされていた。そして、660年に新羅が半島を統一する。大和政権および日本各地の豪族も文化・技術の先進国であるこれら朝鮮半島の諸国と友好・同盟関係を結ぶと共に半島に派兵するなど深く朝鮮半島諸国とかかわり、活発な交流があった。

当時 朝鮮半島・日本地域での外交の中心はなんと言っても「鉄・鉄の技術」の入手と唐や隣国からの侵略への対処であったと考えられる。朝鮮派兵・任那など日本からの半島移住者・逆に日本各地への朝鮮半島からの渡来や朝鮮にルーツを持つ氏族の存在そして、百済・新羅・高句麗諸国との密接な関係はこんな情勢の中で生まれた。

562年に製鉄国「伽耶」が強大化した新羅に滅ぼされると、武器などの原材料「鉄」を伽耶からの輸入に頼っていた日本にとっては、鉄の入手経路の厳しい現実にはさらされることになった。

つまり、この世紀 年々大陸からの鉄の入手は困難になり、鉄の大陸からの自立が大和朝廷にとっては最大の課題であり、伽耶の滅亡により、より一層の緊急課題となった。

日本には、朝鮮半島の混乱を逃れ、多くの渡来人が大陸からやって来て鉄の技術を日本に伝えたという。



日本・韓国の鉄テイ分布 (4世紀後半)

供給源: 伽耶・新羅・百済

大陸から輸入された鉄を原材料に、兵器や工具に加工する鉄鍛冶が専門職化して、軍事と結びつき、また、鉄の自立に向けた製鉄も始まっていたと考えられる。その起源は6世紀半ばと見られているが、まだ良く判っていない。

そんな製鉄にかかわる渡来人の系譜が豪族・氏族として大和朝廷にも多数かかわっていたと考えられ、

現在においても各地に残る産鉄地名・氏名の中にはこの頃の産鉄に起源を持っているものもある。

出雲・息長・鴨・葛城・物部などの諸族 三輪山周辺に残る金屋・穴師・出雲・石上などの地名がこれにあたるのではないかと・・・



4. 邪馬台国大和説と三輪山山麓 山辺の道

邪馬台国大和説では、天理市から桜井市にかけて広がる纏向遺跡や大和（オオヤマト）古墳群が、邪馬台国の中心だったと考えられています。

最近、ホケノ山古墳が、築造年代3世紀前半にさかのぼることが発表され、箸墓古墳と並んで邪馬台国大和説との関係がいられています。

纏向古墳群

三輪山の麓にある桜井市の巻向地区には、卑弥呼の墓ではないかといわれている箸墓古墳を中心に多くの古墳や遺跡があり、近くの山辺の道には大和朝廷の実質的な創始者とも言われる、崇神天皇陵（行燈山古墳）や景行天皇陵（渋谷向山古墳）等もあり、ここが大和朝廷の発祥の地という人もいます。

纏向遺跡には20数基の古墳が存在する。

このうち現状から前方後円墳と判別できるものとして、箸墓古墳、纏向石塚古墳・矢塚古墳・勝山古墳・東田大塚古墳・ホケノ山古墳がある。これらの古墳を総称して「纏向古墳群」という。

これら前方後円墳群は3世紀に現れ、4世紀後半には消滅してゆく。

近年の檀原考古学研究所や桜井市教育委員会等々の発表によれば、纏向古墳群のなかの、勝山古墳、矢塚古墳、ホケノ山古墳、マバカ古墳などは出土物の調査等から、建造時期が3世紀半ばまで遡るとされ、これで卑弥呼活躍の時期と一致するという。

卑弥呼から大和朝廷へ 日本誕生にかかわる大和の連合王権の連合のシンボルがこの前方後円墳と唱える人もいる。

三輪山に行こうと思った当初は「古代産鉄の地に鉄の痕跡を訪ねよう」との軽い気分でしたが、

「この地が卑弥呼の時代から日本誕生にかかわる初期大和政権の本拠地

そして古代を通じて難波津へ通ずる都の外港で遣隋使もこの地から出発した」

など思いも寄らぬ事。しかもそれがすべて三輪山を中心とした古代の産鉄の地で……。

古代 畿内には三輪山・石上と同時に河内にも大きな鍛冶工房。それが三輪王朝に続く河内の王権へ……

そして北近江・越の鉄をバックに畿内へ入った継体天皇の誕生へ。



三輪山は今も砂鉄が見られる鉄の山

この王城の地は時代を越えて脈々と鉄の系譜と共に続いている。

大神神社の巨大な大鳥居は耐用年数1300年の現代の鉄のモニュメント。これからもずっと三輪山の前に立って王城の地 やまを見据え続けるという。

もうビックリ……。畿内の「鉄」が面白くなってきた一日でした。

2004.3.31. by M. Nakanishi

古代 初期大和政権(三輪王権)が王城の地に求めた産鉄の地 産鉄の地「三輪山」とその山麓を縫う山辺の道

1. 産鉄の地「三輪山」とその山麓を縫う山辺の道 Walk
 1. 産鉄地名の桜井市金屋集落 そこは古代王城の地「しきしま」
 2. 三輪山をご神体とする日本最古の神社 大神神社
 3. 三輪山 登拝 三輪山に鉄の痕跡を探して
 4. 卑弥呼の地 箸墓界限 三輪山麓の丘より夕日の大和盆地を眺める
2. 『古代の鉄の山「三輪山」と初期大和政権』 思いつくままに
 1. 三輪山は古代鉄支配のシンボルでなかったか……
 2. 三輪山 大神神社 三輪山山麓は産鉄の地
 3. 鉄をめぐる朝鮮半島諸国と日本の関係
 4. 邪馬台国大和説と三輪山山麓 山辺の道

【完】

参考 1.

奈良 元興寺と 元興寺の鬼「がこぜ」 2011.8月 by Mutsu Nakanishi



蘇我馬子が飛鳥に建立した法興寺が平安遷都と共に平城京に移建、寺名を元興寺に改めた南都七大寺の一つ。
 今の奈良町全体が寺域という大きな寺だったが、今 寺域は狭くなってしまったが、天平の僧房の様式を伝える禅室(国宝)、
 元興寺大塔のヒナ型といわれる五重小塔(国宝)、本尊阿弥陀如来坐像(重文)ほか寺宝は多い。



飛鳥の瓦が今も載る元興寺 極楽院僧房・禅堂 境内に桔梗の花 遠くに奈良の大文字山「高円山」



奈良元興寺の厄除鬼 「鬼は内 福は内」

元興寺の鬼「がこぜ」

2009年2月 Iron Road より

この季節になると毎度ながら、「鬼」が気になる。
 最近では「福は内 鬼は外」から「鬼も内 福は内 鬼も内」と教えるところが多くなっている。
 「地球上に生きとし生けるもの みな共生する仲間」だからと・・・。
 昔話の現代版書き換えと同じで、ちょっと行き過ぎの感じがするのですが・・・。
 久しぶりに 街に 人を助ける良い鬼 厄除け「鬼」の飾 が売られているのを見つけて 思わず買いました。
 かわいらしい顔で振ると「からころ」と澄んだ音がする。

昔 奈良元興寺に「がこぜ・元興神」という鬼がいて 悪者を退治したことから、
 奈良元興寺の節分祭では「鬼は内、福は内」というそうです。
 あの怖いすこい形相の蔵王権現三体が祭られている吉野の蔵王堂も、
 追われた鬼をあつめて、改心させて 「鬼は内 福は内」という。

「鬼」は自分たちとは異なる集団を「鬼」として排除してきた遠い昔の名残り。
 そんな中に製鉄の集団もいたという。



「いつも 一生懸命働きながら 騙されて 退治される」そんな鬼が日本各地で語り継がれてきた。
 「鬼は外 福は内」と言いながら うちでは鬼に感謝し、憎めない。
 そんな構図が「鬼は内 福は内」の言葉として民衆の中で語り継がれてきたのではないかと思っている。
 最近の世相を思いつつ、また、 いろいろな困難に直面している人たちの思いつつ、
 「共に生きる」との姿勢を願って「 福は内 鬼も内 」と

2009.2.1. 神戸にて Mutsu Nakanishi





JFE

耐候性鋼板の鳥居



静寂の中に ひっそりと佇ずみ

古えより 人々に慣れ 親しまれてきた 鳥居

人が生まれ 成長し 大人になり

折にふれ 老いも若きも 男も女も 通った 鳥居

荘厳で華麗 壮大にして緻密

気候 風土に耐え 時を越えて 永遠なる 鳥居

昔は木 今は鉄 万世不朽

錆を防ぐことから生かすことへ、 そこから鳥居にふさわしい色調が生まれました。

新しい時代の鳥居の素材は、木材不足や安全性の問題などを考慮し、あらゆる気候に耐えうる耐候性鋼板へと代替されるようになってきました。

当社では、すでに「熊野本宮大社」「大神神社」「霧島神宮」「靖国神社」「北海道神宮」など、由緒ある大鳥居を総合力を発揮し、建設してまいりました。

新技術、新工法の開発、実用化には総合メーカーとしての力をいかに発揮し、常に業界のパイオニアとして積極的な活動を続けております。

鳥居の特長

コンピュータグラフィックスを駆使し、あらゆる角度から検討を加え、造形美、遠近感、環境との調和など、最も理想的な設計を生みだします。

耐候性鋼板は、鳥居に最もふさわしい色調を発揮します。

当社では昭和30年、わが国で初めて耐候性鋼板を開発して以来、その実体を生かし強度を高めたCUPTEN(カプテン)を開発しました。橋梁、建築、大規模構造物などにも大量に採用されています。

これらの耐候性鋼板の最大の特長は、

鋼の表面に強固な錆層を形成することにあります。

この錆層が、一種の塗装と同じ効果を発揮し、鋼の腐食を防ぎ、そして次第に美しい黒褐色の外観を呈するようになります。

当社の鳥居は、優れた技術と高い精度をいかに発揮し製作されます。

耐候性鍍安定化处理仕様実績



北海道大神宮(大鳥居) 昭和43年/北海道札幌市
高さ 19.1m/幅 25.4m/柱径 1.9m/柱間隔 14.8m



伊曾乃神社(鳥居) 平成元年/愛媛県西条市
高さ 9.5m/幅 13.2m/柱径 0.87m/柱間隔 7.9m



四柱神社(鳥居) 平成12年/長野県松本市
高さ 10.2m/幅 13.3m/柱径 0.8m/柱間隔 8.0m



霧島神宮(外参道大鳥居) 昭和63年/鹿児島県霧島町
高さ 22.4m/幅 28.0m/柱径 1.76m/柱間隔 16.0m



靖国神社(大鳥居) 昭和49年/東京都千代田区
高さ 25.0m/幅 34.1m/柱径 2.5m/柱間隔 19.5m



住吉神社(鳥居) 平成8年/大阪府豊中市
高さ 5.76m/幅 8.01m/柱径 0.45m/柱間隔 4.5m



戸澤神社(鳥居) 平成10年/山形県新庄市
高さ 7.3m/幅 9.8m/柱径 0.6m/柱間隔 5.5m



熊野本宮大社(大鳥居) 平成12年/和歌山県本宮町
高さ 33.9m/幅 42.0m/柱径 2.7m/柱間隔 24.5m



大神神社(第一鳥居) 昭和61年/奈良県桜井市
高さ 32.2m/幅 40.8m/柱径 3.0m/柱間隔 23.5m



女躰神社(鳥居) 平成9年/神奈川県川崎市
高さ 6.7m/幅 8.5m/柱径 0.5m/柱間隔 5.0m



桜木神社(大鳥居) 平成5年/千葉県野田市
高さ 12.85m/幅 18.0m/柱径 1.15m/柱間隔 10.8m

耐候性塗装仕様実績



石槌神社(鳥居) 平成6年/愛媛県西条市
高さ 14.6m/幅 20.0m/柱径 1.22m/柱間隔 11.5m



鏡作神社(鳥居) 平成10年/奈良県磯城郡
高さ 8.0m/幅 10.6m/柱径 0.6m/柱間隔 6.0m



箱根神社(鳥居) 平成5年/神奈川県箱根町
高さ 16.0m/幅 24.1m/柱径 1.7m/柱間隔 13.0m



花園神社(鳥居) 平成8年/東京都新宿区
高さ 9.28m/幅 12.9m/柱径 0.81m/柱間隔 7.0m

特殊形状仕様実績

山王鳥居(笠木の上に破風の合掌を設置)



日枝神社(一の鳥居) 平成7年/東京都千代田区
高さ 10.92m/幅 15.73m/柱径 1.0m/柱間隔 8.3m

両部鳥居(本柱の前後に小柱を設けこれに貫を通す)



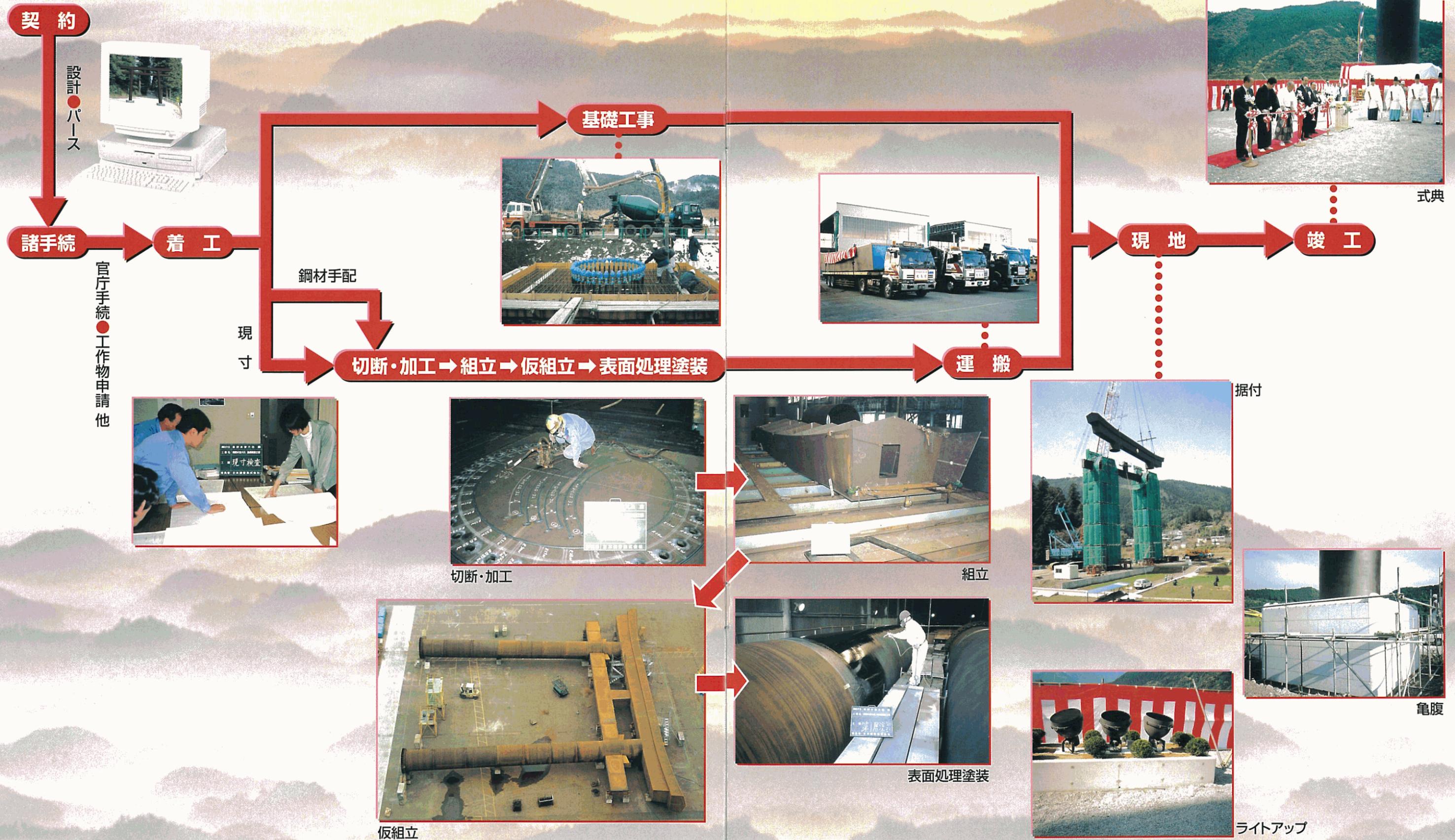
金櫻神社(鳥居) 平成9年/山梨県東山梨郡
高さ 7.2m/幅 8.9m/柱径 0.55m/柱間隔 5.4m

稲荷鳥居(柱の上端に台輪を設置)



談山神社(鳥居) 平成10年/奈良県櫻井市
高さ 6.0m/幅 8.0m/柱径 0.5m/柱間隔 4.5m

契約から竣工までの流れ



耐候性鋼のさび安定化処理剤

「カブテンコート」は、安定さびをじっくり熟成します。

その間、安定化を阻害する成分は通さず、必要な成分だけ通す設計にしています。

安定さびに置き換わるまでの間は、塗装が耐候性鋼の腐食を必要最小限に押さえます。

腐食で生じたイオンは、無駄なく安定さび形成に利用します。

塗膜から安定さびへのバトンタッチ効果で、耐候性鋼のミニマムメンテナンスを達成します。

「カブテンコート」は安定さびにバトンタッチするまで、外観をしっかり守ります。



耐候性鋼の塗装仕様

当社の鳥居の塗装仕上げは、橋梁工事等による多数の実績を有する重防食塗装仕様です。耐候性鋼材の使用により、一般の鋼材に比べ、長期間の防錆効果が期待できます。



照明設備

昼間では見られない夜間照明によるオブジェクト。色彩計画による新しい発見をお約束いたします。

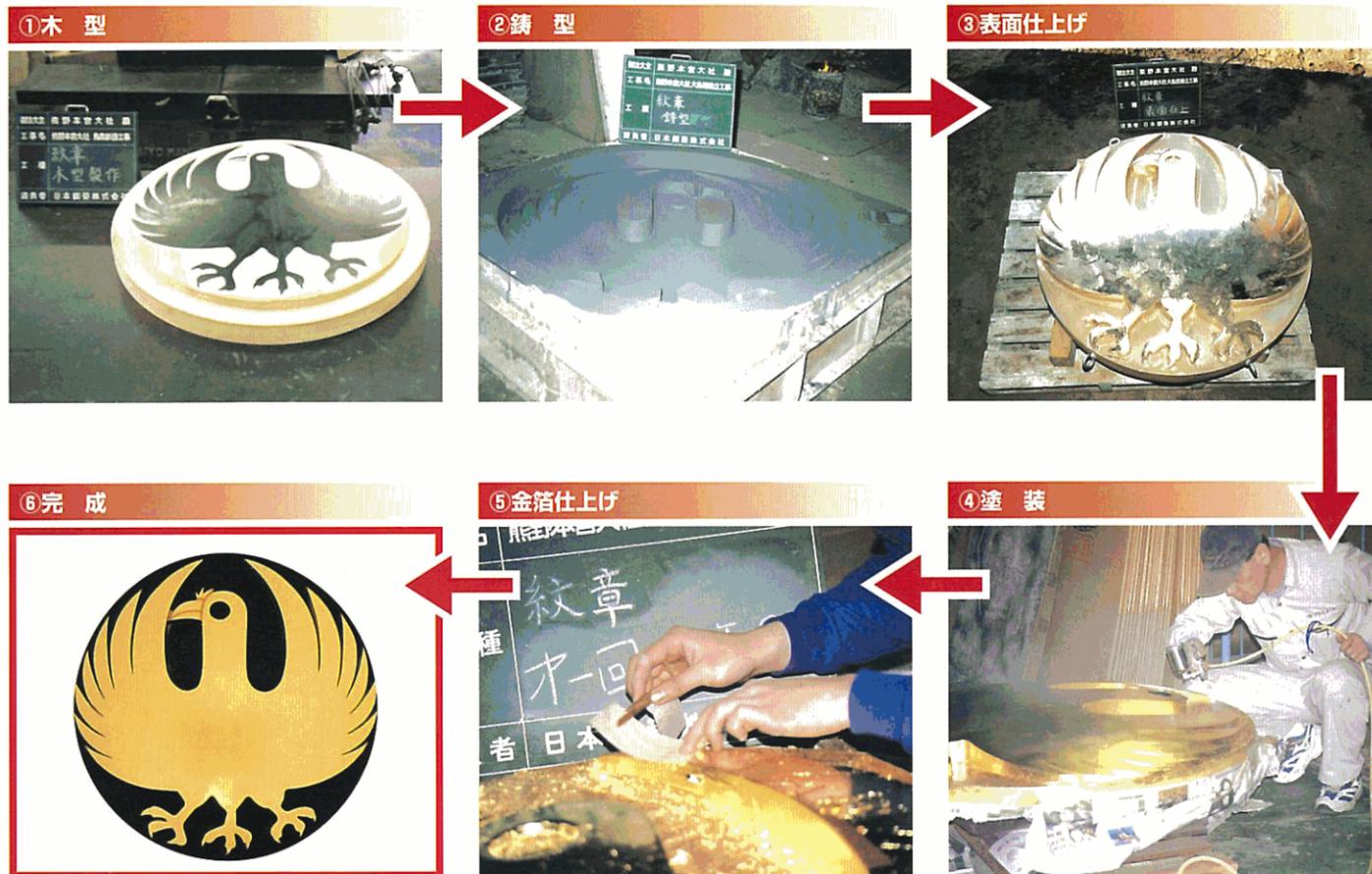


かざり(額、紋章、銘板)

日本古来の伝統工芸による手作りの一品です。

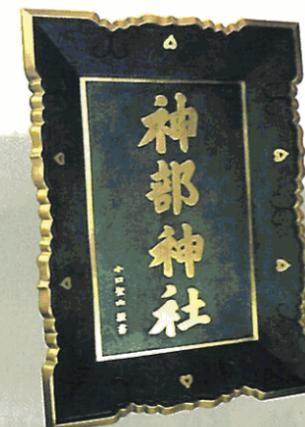
計画段階より当社管理の元に製作いたします。

■紋章：青銅鑄鋼品(焼付塗装後本金箔押し上げ)



■銘板(銅製エッチング仕上げ)

■額：青銅鑄鋼品(文字、額縁は本金箔押し上げ)




JFE

JFE エンジニアリング 株式会社

本社			
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目1番2号			
http://www.jfe-eng.co.jp			
鋼構造事業部 建築営業部 TEL 03-3217-2774 ダイヤルイン FAX 03-3217-2185			
清水製作所	〒424-8603	静岡県静岡市清水区三保387番の1	TEL:0543-34-2961 FAX:0543-34-2781
大阪支社	〒541-0046	大阪市中央区平野町四丁目1番2号 (大阪ガスビル7階)	TEL:06-6223-7500 FAX:06-6223-7592
和歌山支店	〒640-8213	和歌山市舟大工町9番地 (市駅前ビル内)	TEL:073-423-1957 FAX:073-423-1957
名古屋支社	〒450-0002	名古屋市中村区名駅三丁目28番12号 (大名古屋ビル10階)	TEL:052-561-8611 FAX:052-561-8620
岐阜支店	〒500-8381	岐阜市市橋三丁目8番3号 (江崎ビル3階)	TEL:058-268-2031 FAX:058-275-9122
北海道支社	〒060-0005	札幌市中央区北五条西二丁目5番地 (JRタワー17階)	TEL:011-271-2211 FAX:011-271-2218
東北支社	〒980-0803	仙台市青葉区国分町三丁目4番33号 (仙台定禅寺ビル5階)	TEL:022-264-2411 FAX:022-221-4760
千葉支社	〒260-0025	千葉市中央区問屋町1番35号 (千葉ポートサイドタワー23階)	TEL:043-245-2251 FAX:043-245-2254
神奈川支社	〒220-8144	横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号 (横浜ランドマークタワー 44階)	TEL:045-212-3311 FAX:045-212-3127
新潟支社	〒950-0087	新潟市東大通一丁目3番1号 (新潟帝石ビル4階)	TEL:025-245-5341 FAX:025-244-2566
静岡支社	〒422-8061	静岡市駿河区森下町1番35号 (静岡MYタワー13階)	TEL:054-288-0151 FAX:054-288-0158
中国支社	〒730-0036	広島市中区袋町4番21号 (広島富国生命ビル6階)	TEL:082-543-2600 FAX:082-543-2424
山口支店	〒754-0022	山口市小郡花園町1番12号 (小郡第三ビル2階)	TEL:083-974-5868 FAX:083-974-5869
九州支社	〒812-0044	福岡市博多区千代一丁目17番1号 (パビヨン24 5階)	TEL:092-632-1511 FAX:092-632-1519
沖縄支店	〒900-0015	那覇市久茂地三丁目21番1号 (國場ビル9階)	TEL:098-868-9426 FAX:098-868-1703
海外事務所	香港、台北、ヤンゴン		
鶴見事業所	〒230-8611	神奈川県横浜市鶴見区末広町二丁目1番地	TEL:045-505-7435 FAX:045-505-7432
津製作所	〒514-0393	三重県津市雲出鋼管町1番地	TEL:059-246-2010 FAX:059-246-2781

(2005年9月30日現在)